

国際環境NGO
FoE Japan
報告会in信州

3・11から未来へ

考えよう——福島は今、環境・原発のこと

福島の今「見えない化」される被害の実像
エネルギー転換と原発ゼロ基本法案を実現へ

事務局長 満田 夏花

福島の子どもたちの現状と保養
福島ほかほかプロジェクト

スタッフ 矢野 恵理子

「脱原発」が世界の潮流
日本からの原発輸出と世界

スタッフ 深草 亜悠美

長野で初めての報告！



東京電力福島第一原発事故から7年以上がたちました。福島県の避難者はいまだに4万4千人にもものぼり、多くの人たちが故郷を失い苦しい避難生活を送っています(福島県発表/自主避難者の約3万人は統計から除外されている/2018年7月現在)。一方、自主避難者への住宅支援が2017年3月に打ち切られ、「復興」の掛け声のもと、福島への「帰還キャンペーン」が展開されています。

東電の救済と原発延命のために、国民や電力ユーザーからの費用負担の仕組みがつけられるなか、避難者の支援のためのお金は削られ続けています。

また、海外への原発輸出が政府・電力会社一体ですすめられ、福島原発事故がなかったかのような原発推進政策が復活しています。

脱原発2018in信州実行委員会は国際環境NGO FoE Japanのスタッフを長野市に招いて、福島の現状や原発輸出問題についての報告会を開きます。お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

国際環境NGO FoE Japan

東京都板橋区小茂根 1-21-9

TEL03-6909-5983 Fax03-6909-5986

脱原発2018in信州実行委員会

長野市南長野県町 532-3

TEL026-234-2116 携 090-7251-1912

と き 2018年 11月 17日 (土)

13:30~16:30 (開場13:00)

ところ 長野市芸術館 アクトスペース

長野市鶴賀緑町 1613 (長野市役所) TEL 026-219-3100

車は市役所駐車場をご利用ください (2時間まで無料)

資料代 500円

◆予約不要。どなたでもお気軽にご参加ください。

FoE
Japan